

2021年度 歯科医師初期臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの名称

東京医科大学病院歯科医師初期臨床研修プログラム

プログラム責任者：歯科口腔外科・矯正歯科 主任教授 近津 大地

2. 研修歯科医師の募集定員

5名

3. 目的

高齢化社会を迎え、全身疾患を有する歯科・口腔外科疾患患者が激増している。そのような患者に適切に対応するために、歯科・口腔外科疾患の診断と治療の知識と手技を学ぶとともに、患者の全身状態を正しく評価・把握し、安全に治療を行うための全身管理を修得することを目的とする。同時に、医療を行ううえで基本となる歯科・口腔外科医師としての使命感、倫理観と深い人間性を身につける。

4. 特色

顎顔面口腔領域に発生する多様な疾患に対して全身状態の把握をおろそかにすると、本来の治療が遂行できなかつたり、医療事故を引き起こしたり、感染の危険にさらされたりする。殊に高齢化社会に向かって、患者の全身状態の把握は必須であるが、現在の歯学部卒前教育で習得することは実際不可能である。また、卒業後の研修施設で実地教育を受ける機会は少なく、多くの臨床歯科医は全身疾患に対する知識・技術が不十分な状況で歯科・口腔外科疾患患者の治療を行わざるを得ないのが現状である。

本研修プログラムは「口腔を通して全身を診ることの出来る歯科医師」を育成することを目的としている。この目標を達成するために東京医科大学病院において、歯科口腔外科・矯正歯科外来と病棟を経験し治療の基礎的知識と手技を習得する。

5. 概要

本プログラムにおける歯科医師臨床研修は、東京医科大学病院で12か月間行う。研修医は、6か月ごとに病棟、外来研修を行う。そのほか下記の研修を行う。

1. プライマリケアのためのワンポイントレクチャー
2. 講義・セミナー
3. 症例検討会
4. 学会発表
5. 抄読会

ローテーションイメージ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A, B, C	病棟						外来					
D, E	外来						病棟					

6. 歯科医師臨床研修の到達目標

歯科医師臨床研修「基本習熟コース」

【一般目標】

個々の歯科医師が患者の立場に立った歯科医療を実践できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に付ける。

1. 医療面接

【一般目標】

患者中心の歯科診療を実施するために、医療面接についての知識、態度及び技能を身に付け、実践する。

【行動目標】

- ① コミュニケーションスキルを実践する。
- ② 病歴（主訴、現病歴、既往歴及び家族歴）の聴取を的確に行う。
- ③ 病歴を正確に記録する。
- ④ 患者の心理・社会的背景に配慮する。
- ⑤ 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。
- ⑥ 患者の自己決定を尊重する。（インフォームドコンセントの構築）
- ⑦ 患者のプライバシーを守る。
- ⑧ 患者の心身におけるQOL (Quality of Life)に配慮する。
- ⑨ 患者教育と治療への動機付けを行う。

2. 総合診療計画

【一般目標】

効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身に付ける。

【行動目標】

- ① 適切で十分な医療情報を収集する。
- ② 基本的な診察・検査を実践する。
- ③ 基本的な診察・検査の所見を判断する。
- ④ 得られた情報から診断する。
- ⑤ 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。
- ⑥ 十分な説明による患者の自己決定を確認する。
- ⑦ 一口腔単位の治療計画を作成する。

3. 予防・治療基本技術

【一般目標】

歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。

【行動目標】

- ① 基本的な予防法の手技を実施する。
- ② 基本的な治療法の手技を実施する。
- ③ 医療記録を適切に作成する。
- ④ 医療記録を適切に管理する。

4. 応急処置

【一般目標】

一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

【行動目標】

- ① 疼痛に対する基本的な治療を実践する。
- ② 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。
- ③ 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する。

5. 高頻度治療

【一般目標】

一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。

【行動目標】

- ① 齶蝕の基本的な治療を実践する。

- ② 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。
- ③ 歯周疾患の基本的な治療を実践する。
- ④ 抜歯の基本的な処置を実践する。
- ⑤ 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。

6. 医療管理・地域医療

【一般目標】

歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。

【行動目標】

- ① 保険診療を実践する。
- ② チーム医療を実践する。
- ③ 地域医療

7. 到達目標に関して、別添の、“東京医科大学病院臨床研修歯科医 到達目標一覧”の症例数を経験することを義務付ける。

7. 東京医科大学病院歯科口腔外科・矯正歯科の特徴

当科での歯科治療症例数は年間 1200 件であり研修医（歯科）は抜歯を含むう蝕、歯周疾患等の一般歯科治療を経験する。こうした外来一般歯科とは別に各種の専門外来（腫瘍外来、粘膜疾患外来、顎変形症外来、顎関節外来、口腔エイズを含む血液外来、舌や顔面の不定疼痛を診る慢性疼痛外来、顎顔面補綴外来、矯正歯科外来、睡眠時無呼吸外来、口腔ケア外来）を設けている。また、顎顔面インプラントセンター、口唇口蓋裂センターも併設している。研修医（歯科）はこれらの専門外来と顎顔面インプラントセンター、口唇口蓋裂センターもローテーションして研修する。血液外来の扱う口腔 HIV 感染者・AIDS 患者は国内最多である。慢性疼痛患者も極めて多く、社会の複雑化とともに増加する傾向にある。

病棟患者は東京医科大学病院では口腔癌および顎変形症の患者が多い。また顔面骨骨折・外傷患者も多い。なかでも悪性腫瘍は全身的視点に立った治療が必要であるが、医学部病院口腔外科の特長を生かして、各科と連携して集学的治療を行っている。手術は上顎から鎖骨上までを守備範囲とし、マイクロサージェリーを用いた各種の（筋）皮弁やPCBM（腸骨骨髓海綿骨）などを用いた顎骨再建術を行っている。顎変形症手術は通常の骨格性咬合異常や顔面非対称の症例だけでなく、睡眠時無呼吸症候群患者に対しても応用している。口唇口蓋裂は哺乳床（ホッツ床、NAM）を始めとして、口蓋形成術や顎裂部骨移植術、顎矯正手術、矯正歯科治療などを主に担当している。

8. 歯科医師臨床研修の評価と修了認定

初期臨床研修の評価は、「卒後臨床研修記録」で行う。

規定に達しない場合には、研修修了証を発行しないので、忘れずに記録を行うこと。

I. 卒後臨床研修記録

- ① 「研修医個人表」に必要事項を記載する。
- ② オリエンテーション期間中に行われる中央検査部・病理診断部研修については、各研修実施先にて指導担当印をもらい、そろった時点で「基本的な臨床検査研修記録」を卒後臨床研修センターへ提出する。
- ③ 連続した研修単位において「歯科医師臨床研修「研修項目」」を記載する。
- ④ 「患者記録表」に経験した患者についての内容を記載する。
- ⑤ 上記の③～④は、その研修単位で全てを記載する。
- ⑥ 上記⑤をまとめた「指導歯科医の指導状況に対する評価」の自己評価を記載し、当該研修先の指導医に指導医評価を記載してもらうこと。

⑦ ⑤並びに⑥がまとまり次第、卒後臨床研修センターに提出する。

9. 研修医（歯科）に望むこと

当科としては、初期臨床研修プログラム（1年間）修了後も口腔外科の認定医・専門医取得に向けて後期臨床研修プログラム、大学院進学まで視野に入れた研修を希望するものの応募を期待する。

*後期臨床研修プログラム(募集定員5名、研修期間3年)については別紙参照

10. 研修医の処遇

1) 労働契約 常勤（歯科臨床研修医）

2) 研修手当、勤務時間及び休暇に関する事項

給与：月額約23万円（当直手当含む）その他超過勤務手当有り ※総支給額

勤務時間：月～金 9：00～17：00（休憩60分）

第1・3・5土 9：00～13：00（休憩なし）

※その他適宜変更する場合がある

所定時間外労働：あり

当直：あり

休暇：年次有給休暇あり

その他（忌引休暇、夏季休暇等）

3) 待遇・その他

宿舍：有

社会保険：加入

雇用保険：加入

労災保険：加入

健康診断：年2回